

1 おきなわ あまみ しま
沖縄や奄美では、もともと島に
いる生きものたちがおいに食
べたり食べられたりしながら自然
のくらしをつづけていました。
そんなもともといた生きものた
ちのくらしが、そこからきた生き
ものによってメチャクチャになっ
てしまいました。



もし、身のまわりでふだん見かけない
生きものや食くら、もって帰ったり、
移動させたりしないで、連絡してくだ
さい。



くやしきは夏面には!

2 もともと島にいた生きものやねらう
をそこからまた生きもの

ある日のことです。島にいな
ったある生きものが、人がつれて
きたり、のりものなどにまぎれこ
んだりして、島にきたようです。



3 そとからきた生きものたちが、
島の生きものたちをじゃましたり
食べたりしてしまい、困ったこと
になりました。



環境省 那覇自然環境事務所
〒900-0027
沖縄県那覇市山下町5-21 沖縄通関社ビル4階
電話：098-858-5824 FAX：098-858-5825
2006年3月発行

もともと島にいた生きもの

アノモトナカネコ	アノモトモリ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ
アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ
アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ



そとから島にきた生きもの

アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ
アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ
アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ	アノモトシロネ

子どものときはかわいくても
大人になると危なくなるかもしれないよ

犬になるか危なくなるかもしれないよ

ネミより長生きする
生きものもいるかもしれないよ

ネミのお家で飼えないくらい
大きくなるかもしれないよ

総丈に近かだないでください。
そこからまた生きものについて
わからないうちに、あまみ、
お高い合せてください

生きものは、もともと島にいた生きものも、そとから島にいつか来た生きものも、どっちも大切にしてほしいです。もう生きものを飼っている人、これから飼いたいという人は、ちゃんと生きものを育ててあげてくださいね。

外来生物法とは、

正式には「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」といい、特定の外来生物による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止することを目的としています。

禁止 次の行為が原則禁止されます。

飼育／栽培

運搬

保管

輸入

違反したら
不正に輸入したり、逃がしたり、売買した場合、最高で懲役3年、罰金300万円（個人）若しくは1億円（法人）が科せられる場合があります。

販売

野外に放つ／植える／まく

譲渡し／譲受け

どうする？

予防三原則 入れない

悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない。

捨てない

飼っている外来生物を野外に捨てない。

広げない

野外にすでにいる外来生物は他地域に広げない。

写真で見る特定外来生物



カタヤシ

「蚊絶やし」の名が示すように、ホウウラ退治のために世界各地に放流されました。メダカとの競合が問題となっており、放流は絶対に行けません。

ポタソウキクサ

別名ウォータータスとして知られるこの水生植物は、量販店などで安く買えて繁殖力も強いので、池などに捨てられて、水辺を覆い尽くしてしまっています。



タイワンハブ

日本国内で外国産の毒ヘビが定着した最初の例となります。庭や道路などの生活域で目撃されているので、咬傷などの被害に気がつけましょう。



グリーンアノール

アメリカ合衆国東南部のハイマ諸島などが原産で、物資などにまぎれたり、ペットとして飼育され、逃走などによって沖縄南部を中心に繁殖しています。



特定外来生物リスト

(平成18年2月1日現在)

哺乳類	鳥類	爬虫類	両生類	魚類	クモサソリ類	甲殻類	昆虫類	軟体動物等	植物	
クロギツネ、ハリネズミ属、タイワンシロハラリス(クイナリス)、アカゲザル、ヌートリア、クワハラリス(タイワンリス)、タイリクモモンガ(エゾモモンガを除く)、トウハイロリス、キタリス(エゾリスを除く)、アヌクラミット、アラウマンダ、カンクアリス、グアラ、アメリカカミツク、ジャコマンダ、アキスシカ属、シカ属(ホンシカ、ウサシカ、クワシカ、マダガスカルシカを除く)、ダマシカ属、シロウカ、キヨウ	カビチヨウ、カオジロカビチヨウ、カオグロカビチヨウ、ソシチヨウ	カミツキガメ、グリーンアノール、トラウツアノール、ミナミオオガシラ、タイワンシシオ、タイワンハブ	オオヒキガエル、キューバズツキガエル(キューバアラカエル)、コモコヤスガエル、ラジガエル、シロアコガエル	チャネルキヤット、フイリツシユ、ノーザンバイク、ヌキキーハイク、カタヤシ、ブルーギル、コチバス、オオクチバス、ストライプアヒル、ホワイアヒル、ヨーロッパアンバー、バイクバーチ、ケツキヨ、コウライケツキヨ	Atraxius属、Hedronychie属、Loxosceles reclusa、L. laeta、L. gauchoi、セアカコケクダモ、ハイイロコケクダモ、ジウロサンボンコケクダモ、クワコケクダモ、キョクドウサソリ科	Astacuis属、Cherax属、モクスガニ属(モクスガニを除く)、ウチダサリガニ、ラスチエークレイノフイリツシユ	テナガコガネ属(ヤシバルテナガコガネを除く)、ヒアリ、アカカミアリ、アルゼンチンアリ、コカミアリ	カワヒバリガイ属、クラツガガイ、カワホトトギスガイ、ヤマヒタチオビ(オカヒタチオビ)、ニューギニアヤリカタリクラウラムシ	オオキンケイギク、ミスヒマロウ、オオハンゴンソウ、チャルトサワキク、オオカワチシヤ、チガエツル、ゲイトウ、アラシトルチメダ、アヒル、オオサモ(ハロツチエサ)、スバルチエナ、アソトリカ、ポタンウキクサ(ウネータータス)、アソラ・クリスタター	植物



キョクトウサソリの仲間

ペットとして飼育されていたものが逃げた可能性が高いとされています。種によっては刺傷により人体・生命に影響する程の猛毒を有しています。

シロアゴガエル

1964年、沖縄島で発見以来、ほぼ全域に広まり、定着しています。八重山諸島や奄美諸島には侵入していないので、拡散を防止しなければいけません。



アライグマ

人気が高まり、ペットとして導入されたが、逃げ出したり捨てられたりして野生化し、分布が拡大しています。農作物被害や捕食、競合による在来生物への影響が危惧されます。



オオヒキガエル

サトウキビ畑の害虫駆除のため世界各地で導入されました。在来種の捕食や有毒なオオヒキガエルを捕食した動物の中毒も問題となっています。



カニクイザル

ニホンザルと似ていますが、40cmほどの長い尾をもっているのが特徴です。在来生物の捕食、農作物被害が危がまっています。



マンシュウハリネズミ

ペットとして飼育されていたものが、逃げて農作物への被害やシネズミ等との競合がおこるのではないかと危惧されています。



外来生物に関するお問い合わせは、

環境省那覇自然環境事務所

Tel. 098-858-5824 Fax. 098-858-5825
http://www.env.go.jp/nature/intro/index.html

